

梅檀木橋 せんだんのきはし ● Sendannoki-bashi  
〈土佐堀川〉

土佐堀川に架かる梅檀木橋は、江戸時代に諸藩の蔵屋敷が建てられていた中之島と船場との交通のために架けられた橋の一つと考えられている。橋名は、この橋筋に梅檀の大木があったことから名付けられたと言われているが、定かではない。

明治に入っても木橋のままだった橋は、明治18(1885)年の大洪水でこの橋をはじめ、多くの橋が流失してしまった。再び架けられたのは大正3(1914)年。これは明治37(1904)年に今の大阪府立中之島図書館が建てられ、明治末には大阪市庁舎の建設が決まったことで、橋が必要になったためと思われる。その後、第一次都市計画の一環として昭和10(1935)年に架け換えられた橋は、フラットでシンプルな美しさを強調した設計だった。

現在の橋は、前の橋のイメージを大切にしながらも、府立中之島図書館や中央公会堂などの歴史的建造物と調和した景観になるよう配慮されたデザインになっている。また、橋詰には梅檀の木をモチーフにした欄干パネルや由来碑、大正時代の親柱など、橋の歴史がわかるようになっている。